

【様式1】

令和6年度 授業改善推進プラン

東久留米市立東中学校 第1学年

教科	学力に関する各調査に基づく生徒の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	・授業中の活動では、自分の考えを表出することに対する苦手意識はあまりなく、言葉は短くとも大半の生徒がワークシートに記述している。「わからない」と解答を諦め白紙で提出してしまう生徒は2名程度である。一方で、定期考査の記述式の問題では、質問に正対した解答や具体的な説明に課題が見られる生徒が3割程度いる。	・内容の読み取りをする際に、思考の根拠として文章中の表現を1つ以上挙げさせて解答する。(毎単元) ・考えの表出では、「なぜ」を3回以上繰り返すことで自身の思考を明確にし、具体的な説明ができる生徒を8割以上にする。また、クラスメイトとの意見交換を通じ、幅広い考えをもてるようにする。
数学	・2学期中間考査では、解を指定した数値にする方程式を作る問題を出題したが、整数になる問題で4割程度、分数になる問題で3割程度の正答率だった。また規則性の問題では、式を作り、その式を説明する問題では5割程度の正答率だった。定期考査や授業の理解度から分数、小数への計算が苦手である生徒が6割程度いる。また、自分の考えを説明する力が不十分である生徒も6割程度いる。	・計算問題(正負の数、文字式、方程式)で途中式をノートに書かせ、答え合わせの時に自分の間違いに気づけるよう指導していくことで分数や小数を含む計算問題を正確にできる生徒を7割以上にする。 ・自分の考え方が分かるように、何を根拠にして解決したかをノートに書かせる。また自分の考えを生徒同士で教え合うことで相手に伝わりやすい方法を学べるようにし、自分の考えをわかりやすく説明できる生徒を7割以上にする。
理科	・授業に集中している生徒が約70%、質問をすると自分の意見を答えられる生徒が約70%見られる。(観察) ・定期試験の結果から言葉の意味や語句の定着が見られる生徒は6～7割、濃度や密度などの計算を正しく行える生徒は6割以下である。 ・実験プリントの提出の結果から、実験に興味のある生徒は7～8割いる。科学に興味をもって実験を行うことはとても良い傾向である。しかし、実験結果から科学的な現象を考え、考察できている生徒は5割ほどである。	・週に1回実験を行い、班で実験結果をまとめる。どのような現象が起こっていたのか班で考える時間をとり、正しい説明ができる生徒を8割以上にする。 ・重要な問題を何回も繰り返し解くように伝え、分からなかった場所はノートにまとめ、質問しやすい状態にしておくように指導する。
英語	・2学期の中間考査の読解問題では、内容を問う思考・判断の問題で、正答率は6割程度であった。 ・また、同じ考査での文法の知識を問う問題では、45%の正答率であった。 ・書くことに対する抵抗感が少なく、ワークシートの記入や課題への取組みにおいて、8割以上の生徒が自分の意見を記入している。また、1学期の定期考査の平均点は75点以上であった。	・授業の中でタスク活動を設定する。「練習タスク」「課題タスク」「本番タスク(定期考査など)」と複数回に分けて取り組ませるなかで、「読み方」について指導する。 ・各単元で1回以上、教科書本文の暗唱を課題とする。何度も声に出して読む機会を作り、一人一人の発音や理解度をチェックする。 ・文構造に関連する活動を毎時間取り入れ、定期考査での正答率を上昇させる。

東久留米市立東中学校 第2学年

教科	学力に関する各調査に基づく生徒の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	・説明文において、教科書掲載の文章の骨格を維持したまま内容を差し替えた問題の正答率は、教科書の文章をそのまま出題したときより10ポイントほど低い。文学的文章においても同様の結果となるが、生徒の学習に向かう姿勢が要因の一つと考える。国語科では、小説や論説文はもちろん、漢字や文法などの言語事項であっても「考えて結論を導く力」を養うが、生徒の約10%はワークブックやノートに書かれた事項を「覚える」ことに留まっている。学習習慣をいかに改善させるかが課題である。	・「問」（形声）の部首は「口」、「問」（会意）の部首は「門」などと「覚える」のではなく、言語事項であっても因果関係を考える授業の充実を図る。未知の状況に対処できる思考力を培うために「形声の原則・各種文法説・欲求説・功利主義・討議デモクラシー」など、単元に応じた学際的な裏付けをもった教材研究と内容解釈を行うことで、主体性の根源である好奇心を引き出す授業の展開に努める。
数学	・夏休み明けテストと中間検査では、割合の連立方程式をたてる問題の正答率が5割程度であった。また夏休み明けテストでは、文字を使って性質を説明する問題の正答率が2割程度であった。定期検査や授業の理解度から割合の計算が苦手な生徒が多く、さらに文字が入ることにより理解度が低くなっている。また、問題文を正しく読み取る力に課題が見られる生徒が6割程度いる。	・割合の計算では、小数、分数の計算を正確にできることが必要である。その上で、文字が入っても計算できるように、まずは具体的な数字で例を示してから、文字に置き換えるように指導していくことで、割合の計算をできるようにする生徒を7割以上にする。 ・問題文を正しく読み取るために、与えられた条件と求めるものを明確にするよう指導する。また、似た問題を演習し、数学の問題文に慣れさせることで理解度を増していき、問題文を正しく読み取れる生徒を7割以上にする。
理科	・授業への集中は全国学力調査の達成率（約5割）と比較しても高いと感じられてきている。また、自発的に学習でき、質問など自主的にしてくる生徒も3～4割いる。一方、2割ほどの生徒の層が理解度に課題が見られる。 ・実験データなどの処理を伴う手法の習得に課題の見られる生徒が提出されたレポートや定期検査などから判断して約2割ほどおり、数学的抽象問題の洞察力を高める必要がある。	・重要な課題は繰り返し問題等を提供して意識喚起の反復練習を行い、特に単元のまとめを丁寧に言い定着を図る。また、ノートなどにメモ欄を設けて活用し、課題の側面から定着を支援するようにする。 ・比較的容易な実験もなるべく取り入れ「データ」処理能力を高める。実験レポートなどのまとめなどは考察の過程を表記するように改めたい。
英語	・単語テストや定期検査の結果から、基礎的な単語や文法事項の習得に課題が見られる生徒が3割程度いる。 ・定期検査の読解問題において、英語による質問に英語で答える問題に課題が見られる生徒が3割程度いる。	・新出語句に関しては授業内での口頭練習に加え、ノートに書く練習や単語テストを実施することにより、7割以上の単語を身に付けられるように指導する。文法事項においては、授業や宿題でワークやプリントを用いて身に付くよう指導する。 ・読解問題に関しては、教科書の本文を用いて問題を作成し、授業の中で解き方を身に付けられるように指導する。

【様式1】

令和6年度 授業改善推進プラン

東久留米市立東中学校 第3学年

教科	学力に関する各調査に基づく生徒の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	・全国学力調査の結果から、文章と図を結び付けて解釈したり、目的に応じた情報を基に要約したりすることに課題が見られる生徒が60%である。また、記述式の問題において自分の考えを書いたり、説明したりする問題の無回答率が15%程度である。 ・定期考査でも、記述式の問題(200字作文)の無回答率が20%程度である。	・意味段落ごとに要約を行い、論旨を捉える。(毎単元) ・初読の感想や作品の解釈等、文章中の表現を根拠にして自分の意見を記述する機会を増やす。発表・提出前には、自分が書いた文章を読み返す時間を必ず取り、6割以上の生徒が目的に応じた、ゆらぎのない文章を書けるようになることを目指す。
数学	・全国学力調査の結果から、図形の領域における正答率が44%である。観点別にみると、思考・判断・表現の区分について正答率が35.3%である。このことから、結論に至るまでの思考過程を組み立てることが苦手であり、特に図形の領域において、思考の段階を踏んで結論まで辿りつくことに課題があると考えられる。	・分かっていることと求めることを明確にし、結論に至るまでの道筋を考えさせ、ノートに記述させる。また、その考え方をグループワーク等を通して共有する時間を持つ。(毎時間) ・その際、数学的な考え方をもとにして問題解決までの道筋を考えることができる生徒を70%以上にする。
理科	・2学期の中間考査の結果から生物分野の内容を理解している生徒が6～7割程度だが、化学分野のイオンを理解している生徒は2～3割程度である。元素記号やイオン式の小テストは35点中平均点が31点と高かったが、そこから、粒子の動きやなぜ電気が流れるのか説明できる生徒は3～4割程度である。	・週1回程度実験を行い、電気の流れや化学反応を観察する。実験結果は班で情報を共有し、どのような現象が起きたのか話し合う。科学的な現象を正しく考えることができる生徒を70%以上にする。 ・自分が分からなかったところをまとめて、質問しやすい状態にしておくように指導する。重要な問題は繰り返し解くことを伝え、単元の内容の定着を図る。
英語	・読解問題において、英語による問いに対してYesやNoではなく主語と動詞のある文で答える問題に課題が見られる生徒が3割程度である。 ・英作文を行う際に、自分の気持ちや考えを英語で表現することに課題が見られる生徒が3割程度である。	・授業の帯活動として、プリントを用いた読解問題に取り組ませる。教員が採点し、生徒の様子を把握する。返却する際に解き方を説明し、自分の力で解けるように指導する。 ・月に3回程度、授業で英作文の活動を取り入れる。お題を与え、決められた時間内に英作文をノートに書き、教員が添削をする。返却する際に例文を提示し、表現の幅が広がるように指導する。